夕刊
磐城新聞
三月二十七日發行
發行所 磐城新聞合資會社
(日曜祭日翌日休刊)
振替東京一〇八〇五五六五番

森山麥笑氏の個展を見て

龍城生

麥笑氏の個展が三月廿、廿一日の兩日丸友ホールで開催された。氏は院展少壯作家であり、花鳥を得意とする。院展は三回以上の入選者を院友として既に院友數十人がある

開設以後院展は横山大觀氏を總帥として床の間藝術を叫び、竹内栖鳳、結城素明先生の帝展（新文展）、川端龍子先生の青龍社の所謂會場藝術と各々對立して、年々再々の展覧會も亦旗色鮮明面白いものがある

麥笑氏も亦院展に育つ人で此度の展覧會の作品を見て、その院の主義を明らかに表明してゐる。自分は末だ院展の會場に於て一度も麥笑氏の作品に接した事はない。或ひは出品されても自分の不行届で見落したかも知れぬが、今度の仕事を見て仲々達者な人だと思つた。作品中私の好きなものは、牡丹と仔猫の圖及び枯柳と白鷺の圖、櫻に鳥を描いたものである、中央にかけてあつた鶏の圖は他作に比して努力のあとがみへる然し努力と作品のよさは、必ずしも正比例するものでない。却つてあつさりしたものに氏のよさを感じた。

繪の傾向は寧ろ寫實で一寸古い感じがするが、兎に角尺五の描方のコツを非常によくのみこんだ無駄のない仕事をする人だと思ふ

枯柳の枝の描方のうまさ仔猫の墨のぼかし方、確かに技倆のある人だ。只私が作品を拜見して感ずることは、我々新時代に生きるものはやはり新時代の感覺がなければならぬ。時代は刻々に進展しつゝある。只書家が生活を考へる時、大家でない限り、或る程度迄大衆的な繪、つまり大衆と妥協しなければならぬ苦しみがある。麥笑氏の眞實の製作を拜見してない私は或ひはそうではないかと思ふ。とまれ尺五にしてもこれまで立派なものが平町に展觀された事を心から喜ぶものである

晴れたぞ

佐々木健之

晴れた
晴れたぞ
いゝ天氣だ

遠い
お山が
近く見ゐる

雀
チュン〳〵
元氣がいゝ

お池の
金魚
嬉しいか

遊ぼ
遊ぼよ
ブランコ漕つで

晴れた
晴れたぞ
いゝ天氣だ

句帳から

さだけ

花種の袋繪どれも美しさ
種浸すひやうたん池といふとこ
嫁ぐ日の近き姿なり針供養
鶏合せ若い女房も腕組める
大いなる椿の上のさくらかな
この村やどこ歩いても落椿

雷子

『野麥』原稿募集 四月下旬創刊

□詩　二篇以内
□短歌　十首以内
□俳句　十句以内
□〆切は來る三月末日とす
□必ず原稿用紙を用ゆること
□送り先は　平町四丁目マルトモ書店内『野麥』同人宛
□『野麥』原稿と表記すること

平商考査問題

第一日

(1)

讀方科

一、次の歌を讀んで左の問に答へなさい

夢にのみ見し山川も
あけくれにしたひし家も
まのあたり近く追りぬ
かもめ飛ぶ海をすべりて
船は今靜かに歸る
懐かしき故郷の港

問一『夢にのみ見し山川』とは何處の山川ですか
問二『あけくれにしたひし家』とは誰の家ですか
問三『まのあたり近く追りぬ』とは何が迫つたのですか
問四、次の言葉の中にこの歌の感じを表したものがあれば○印をつけなさい
『不安の感じ』『嬉しい心持』『さびしい思ひ』

二、次の語句のワケをかきなさい
首位を占む。
其の名はくちせず、諸葛孔明。
勝つてかぶとのををしめよ。
壯快言語に絶し候。

三、次の熟字のヨミカタとワケを書きなさい
刊行。滯在。勝算。屈指珍重。

四、次の語を使つて短文を作りなさい
終始一貫。かねて。瞬間乘じて。

五、次の言葉の中で正しくない方を消しなさい
〔貨幣 貨弊〕〔成積 成績〕〔栽培 裁培〕
〔歡迎 觀迎〕〔撰擧 選擧〕

六、次の文中カタカナに漢字をあてよ
チヤソンクのシンボを成しトゲる
ベンキヤウもタイセツなれど體にもセイゼイ御チユウイなさるべく候

(1) 1011,798÷738
商は小數第三位まで求め餘りも記せ
(2) (3ヵ6分ノ5＋1ー7,2×3分ノ1＋7ヵ15分ノ7)÷1ヵ15分ノ14を計算せよ
(3) 下茶は上茶よりも1袋で40錢安い、下茶7袋と上茶3袋で13圓20錢である、上茶下茶各1袋の價は幾らか
(4) 日歩一錢五厘を年利に直すと何割何分何厘何毛になるか
(5) 350圓に買つては4割の儲かある品を300圓で賣れば何割何分儲かあるか、又何割の損となるか

(以下次號)

△　△　△

今日の歴史

3月28日 △蠶糸祭△キリスト復活祭△豊臣秀頼二條城で徳川家康に會見(慶長一六)△木曾川の治水工事成る(寶暦五)△長崎に初めて製鐵所落成(文久元)

3月29日 △八百屋お七處刑(天和三)△遊女玉菊歿(享保一一)△始めて戸籍を定む(明治二)△貨幣法發布(同三〇)

講談 妖刀流轉（ようとうるてん）

(48) 邑井貞吉演　佐々木今朝吉畫

身の浮む瀬（四）

軍藏も兼之進も大汗になつて、兼之進木剣を投出し

兼『參つた〳〵』

と縁側へ腰をかけ大息をつく。軍藏もセイ〳〵云ひながら

『先生參つたとは何を仰しやいます』

兼『イヤ〳〵、迚も拙者の及ぶ處でない、殘念ながら息が續かぬ、久しく木剣を手に取らなんだ祟りかも知れぬが、イヤ早や老年に及んでは意久地がない、それに引かへて貴公は、失禮ながら若手に似合はず、確な腕前、お美事お美事矢張拙者が眼鏡通りぢや、アッハゝゝゝ』

と餘程疲れたらしい様子

軍藏急いで臺所から水を酌んで參り、兼之進に進めて自分も美味そうにグッと飲み干し

軍『拙者とても久しぶりにてお手合せを致し、實に骨が折れましたが、勝をお讓り下されましたのは拾ひ物の仕合せ、何卒これにお懲りなく又時々御指南を願ひ度く存じます』

と嬉しそうに言つた

西條兼之進は自分の眼鏡に違はず、廣瀬軍藏がなか〳〵武藝にも達してゐる事を確めたから大に感心を致し、これ程文武兩道に多少の心得もあり、人間も氣が利いてゐるに拘はらず、親に勘當され流浪の身の上となつたのは全く一時の迷ひ若氣の過ちであつたに違ひない、惡かつたと氣がつき改心してゐる事は昨今の擧動でよくわかる、物が出來て了見も改まつたと來ればこんな結構な事はない

殘念ながら主君青山大藏大輔の御傍には、これだけの若侍が家中にないが、こういふ若者が殿樣のお傍についてゐたら、イザといふ場合に物の役に立つであらうにと、兼之進自分は浪人してゐながらも、御主君のこと主家の爲めを忘れぬのは流石忠臣の心掛け

さてその日も暮れて翌日は一陽來復の元旦、軍藏は洗面手水を濟まし恭しく兼之進の前へ兩手をつかへ

軍『先生おけましてお目出度う存じます、今朝は風もなく陽氣腹かで誠に結構な新年謎んで御慶を申述べます、さて昨年は圖らずも一夜の宿をお願ひ致せしが御縁となり、お手元にお差置き下され、お蔭を以て無事に新しき歳を迎へる事のできましたは、拙者の身に取りましては再生の御高恩と申すべく有難き次第にござります』

と挨拶をした、兼之進も莞爾として

兼『御同然に改年の御慶目出度く申述べる、御身も拙者も今日は浪々中の身ながら、さて正月といふものはいつ何處で迎へても氣分のよいもの、ところで廣瀬氏一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にありとやら正月だからと申して悠然と祝酒を酌み空しく過ごすといふは心ある者のなす事でない、そこでよい折柄ゆゑ改めて御相談いたすが、御身は信洲高遠内藤家お物頭役の御子息と承はる、勘當を受けたのは御身の過ちから起つた事とは申せ親子の情に變りはない、さぞかし御尊父も朝夕御身の事を案じて居られる事と思ふ、それ故御身が改心して眞の武士となられた事をお聞きなさらば、どの位喜ばれるかわからぬ、そも〳〵子としては親の心を安んじ喜ばせるが第一の孝行、是迄の不孝の詫として御身が相當の立身を致し、故郷へ錦を飾つて親許へ歸參なさるる思召はないか、御相談と申すはこの事でござる』

と云つたのは、當人の心掛次第で、隨分その推擧もしてやらうといふ下心があつてのこと

今朝吉畫

平町南町五二
根本產婦人科醫院
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
(入院隨時)

職工及徒弟募集
大工職　十名入用
挽物見習　十五名入用
御希望の方は至急申込まれたし
各種挽物 木製玩具 木工品一式 製作卸
佐藤木工所
平町十五丁目
電話二五三番

開院
專門
皮膚科
泌尿器科
性病科
診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平町田町舊山内醫院跡
入院隨意
醫學博士 江尻伊三郎
江尻醫院
電話六九一

診療科目
一、齒科一般
一、口腔外科
内郷村大字内町字小ノ出六四
(内郷第二小學校前)
日本大學齒科醫學士 齋藤定輔
齊藤齒科醫院
求ム 看護婦或ハ見習看護婦

外科一般 内臓外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
〔血液檢査毎日〕
イツデモ入院デキマス。
平町新川町二七〔電四六四〕
醫學博士 北川芳夫
技師 小林良次

和洋
建具
家具
テーブル
椅子
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。
諸官衙
各學校
御用達
製作販賣
平町五丁目四
片寄製作店
片寄小彌太
電話四八四番

御進學御祝として正確な學生用時計を特賣致します。
春だ!!櫻だ!!レコードだ!!
今年の主なる花見レコード
ビクター…さくら娘、コロムビア花見をどり、ポリドール日本節、テイチク花見をどり
金光堂時計店
平町一丁目・電話一九五番

時計の値上りは御存の筈
ーアゝそれなのに
安いのはく
早い仕入と現金買ひだから
あたりまいでしよう。
○御入學御進級記念學生向實用腕時計をぜひ大谷で
○特に學生諸君に限り腕時計御買上げ一個ごとに十四金ペン萬年筆一本サービス、其上御値段御安く差上げます。
三丁目
大谷時計店
電話十九番

店員募集
定評有る……大塚の靴
在庫品の續く限り値上げせず
經好の御買ひ時……!
時代的職業
五名募集
十四、五歳より(尋卒以上)
待遇法 一ケ月三圓以上積立
(明細御面談)
靴と運動具
大塚
平・田町銀座通
電話七十七番

吸入用醫療 純度99%
度量衡
モノサシ・マス・ハカリ
體温器
寒暖計
關内藥局
電話四〇番

開院廣告
平病院
平町警察署側(電六四一番)
院長 醫學博士 鈴木定藏
内科　院長 醫學博士 鈴木定藏
小兒科　部長 醫學士 木下基一(近日着任)
内臓外科・一般外科　副院長 醫學士 横山喜俊
皮膚泌尿器科
產婦人科　部長 醫學士 池谷宗三郎
レントゲン科　部長 醫學士 横山喜俊
物理的療法科　技師 岡田重德
藥劑科　部長 藥劑師 吉本孝平
◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄(夜間診療ニ從事ス)(急患ハ此ノ限リニアラズ)
往診隨時
病室完備……入院隨時〔自炊ノ便アリ〕

試驗地獄の幕ひらく
狹き門にドツと千餘
息づまる三中等學校風景

當人と、先生と、父兄との全神經が集注する日は遂に來た。けふから三中等學校試驗地獄の幕は一齊に開かれたのだ

磐中は定刻前早くも附添の父兄達と共に押し寄せて受付子を面喰はせた後合圖のベルと共に高鳴る胸を抑へて突進して行つた、磐女も午前八時の聲を聞かぬうち受驗生を容るゝ餘地なき迄に附添ひの母姉で黑山となり――一時間目―二時間目―控室に焦躁の時間を移らその姿は哀れだ、又平商も合圖のサイレンと共にドッ！と奔流と化した一間幅の廊下には『最受驗難』と云ふ惱みの臭ひが漂つてゐた

胸は高鳴る

何處も、此處も過去一ヶ年間つめ込んだ努力の發揮、息づまるやうな『試驗風景』である―かくして平商は明日、磐中、磐女は明後日で身体檢査をも終り、狹き門に飛び込む合格者の發表は三校共來る三十日、受驗兒千百七人の目！目！目！はまたしても一齊に注がれて――そこに描かれる泣き笑ひの表情には例年の事ながら强く心を打たれるものがある

磐中二年 編入合格

磐中二年への編入試驗合格者左の如く
小松四郎　佐藤次男　藤田信藏
小松、佐藤兩君は靑年學校出身

園內九ヶ所に 指定賣店地
希望者は町役場へ

花近づく

春雨の情にはだされて松ヶ岡の櫻の蕾は昨今メッキリ膨れ出したので早くもそつち、こつちで『觀櫻會』の朗かな話が持ち出されてゐる――町役場では例年の如く目下園內賣店の希望者を受付けてゐるが締切りは明二十八日
△一等地五ヶ所（一ヶ所二十四圓三十錢）△二等地一ヶ所（同十八圓）△三等三ヶ所（同十三圓五十錢）
使用期間は來月十日から二十六日迄で希望者は申込保證金三圓、今二十七日迄十六名の申込みがあつた、來月一日午後一時から町會議事堂で抽籤により決定する

勞銀値上
◇喜ぶ勞働者

夏井川改修事務所では物價騰貴により來月一日から勞銀男六錢、女三錢値上げ

養蠶實行組合新設

蠶糸業組合法に基き郡下左記町村に養蠶實行組合が新設された
上遠野　川部　植田　錦　大浦　高久　勿來　山田　磐崎　平　好間　川前　田人　渡邊　神谷　玉川　飯野　赤井　上小川　下小川　大野　四倉　鹿島　夏井　內郷　泉

小川鮫川 定期總會

小川江筋組合では二十七日午前十時から鮫川堰水利組合では二十九日午前十時何れも平團体事務所に定期總會を開き決、豫算を附議

植田校優等生　二

（五の一）鈴木誠　間宮俊彥　花房由記　會川良治　三好春子　渡邊禮子　高木千代子　八代愛子（五の二）木村照久　村松義人　長谷川逢夫　山際哲　樋田登茂惠　古川榮子　宮川喜美代　蛭田成（五の三）金澤淸　高木寬　佐藤作治　峯口政喜　三好富貴子　久保美代子　松本艷子　佐藤愛子（六の一）小野弘雄　瀨谷正男　長瀨彰子　小川キソ子　成瀨仁子　佐藤文夫　富樫光夫　石井智子　渡邊房子　鈴木甲子（六の二）赤坂隆　雫石英子　佐藤君子　中根衛　金成ミツ　安島歲子　北郷梅子　疋田榮子　鷲トモ子　赤津ヤス子　渡邊義雄（六の三）古川芳子　山口トシ子　齋藤正美　松村ミトリ　高原正良　鈴木英夫　成瀨百合子　上遠野三郎　根本トミ子　阿部キヨ子　助川和子（高一の一）高木秀夫　水口秀雄　山野邊高明　鈴木竹男　樋田乘好　綠川丈夫　瀨谷正之（高一の二）大野久子　小川蕣美子　小野玉枝　木村タカ　大平フミ　大津ハルノ　戶澤ハル子　蛭田豐子（高二の一）櫛田幸一　鈴木達雄　拓植長重　富岡嘉雄　櫛田淸水　大庭淸次　鈴木洸一　古川宏　押田廣文　廣田實（高二の二）小野卓子　大平美津子　峯口ナツ　金成ウメ　渡邊良子　井澤廣子　菅野トシヱ　小宅トシ
（六ヶ年精勤尋六）小野弘雄　佐川操　鈴木甲子　諏訪廣　古川十三夫　赤津富久子　高木福子　小川キソ子　太田昌子　長瀨彰子　蛭田榮明　佐藤ミヨ子　阿部ヨシ　雫石英子　大平房子　鴨廣三　平山光男　小宮山尙　古川芳子　阿部キヨ子　吉田初枝　赤津アヤ子　松村ミトリ　茅根智惠子　根本トメ子
（八ヶ年同）鈴木洸一　石川嘉滿　富岡一見　櫛田幸一　根本末男
（部會賞）小野弘雄　赤坂隆　佐川芳子　櫛田幸一　小野卓子

入學試驗問題　第一日

磐城中學校（1）

◇第一校時

一、左の文を讀んで次の問に答へなさい
世の中は何でも一生けんめいに働く者が勝だ。米が出來るのも、麥が取れるのも、土といふありがたいものが、めい〳〵の骨折に對して、御はうびを下さるのだ。うち中が丈夫で、仲よくかせぐ、こんな仕合なことはない
イ、『御はうび』とは何をさしますか
ロ、『こんな仕合』とは何をいひますか
ハ、此の文の中にどんな敎訓がありますか

二、左の文の傍線のところを解釋しなさい
1 君は書を以て一家を成せる人なるに、數年の間一度も筆を取り給ひし事なし。我もとより衣食の費をいとふにあらされど、何時までもかくておはすべきにあらねば、今は何處へなりとも行きて君の技をふるひ給へ
2 印刷術の幼稚なる時代にありては、唯をりをり興味ある特殊の事件を報道するに過ぎざりき

三、左の語を用ひて短文二つづゝを作りなさい
イ、からうじて　ロ、とりあへず　ハ、花々しい　ニ、思案する　ホ、豫想以上

◇第二校時
(1) 次の式を計算せよ　734,18+3,47−4,025+0,92
(2) 次の式を計算せよ　7ヵ4分ノ3÷8分ノ3−(7−2ヵ13分ノ5)
(3) 次の割算の答は小數第三位まで出し、下は四捨五入せよ　1,5÷0,07
(4) 次の分數を約せ　195分ノ130
(5) 面積が25平方米突の正方形の一邊は幾米突か
（以下次號）

磐城女學校

◇第一校時
次の式を計算せよ
(1) 2ヵ8分ノ3+6分ノ5−1ヵ12分ノ5−24分ノ19
(2) 17−(2ヵ8分ノ1−1ヵ4分ノ1)×3+8分ノ5
(3) 1ヵ9分ノ5÷2ヵ6分ノ1×7分ノ3÷13分ノ2
(4) (8ヵ3分ノ1+0,75)×9分ノ4÷8×1ヵ109分ノ107
(5) 速さが毎時15浬の汽船で甲港から乙港まで行くのに2ヵ3分ノ1時間かかつた、甲乙兩港間の航路は幾浬か
(6) 國旗の寸法、縱の長さは横の3分ノ2で、日の丸の直徑は縱の長さの5分ノ3である、日の丸の直徑40センチの國旗を作るには横の長さを何程にすればよいか
(7) 4メートル立方と4立方メートルとはどちらがどれだけ大きいか
(8) 4圓50錢で仕入れた反物を5圓85錢の正札を附けて賣つた、利益の歩合は何程か
(9) 或仕事をするに甲だけでは4時間かかり、乙だけでは6時間かかる、此の仕事を甲乙2人では1時間に何分の幾つを成すか
(10) 次の中で正比例するもの、反比例をするものがあれば選び出しなさい
(イ) 小包の目方と郵稅
(ロ) 一日の晝の長さと夜の長さ
(ハ) 目方で賣買する品物の目方と値段
(ニ) 或る距離を行くに要する時間と速さ

◇第二校時
一、都をばかすみとともに立ちしかど、秋風ぞ吹く白河の關
この歌を讀んで次の問に答へなさい
1 この歌をよんだ人は誰ですか
2 『都』とはどこのことですか
3 『かすみとともに立つ』とはどういふ意味ですか
二、次の文を解釋しなさい
1 すかさず銃火をあびせかけたれば、一軍今や崩れんとす
2 せめて此の所存を君に知らせ奉らばや
（以下次號）

郡下種牡馬品評會
輝く入賞者きまる

石城產馬畜產組合主催の種牡馬品評會は去る廿五日澤渡村中寺鷚市場で開いた出陳六十餘頭、入賞左の如し
（一等）永戶水野藤助　三阪富澤庄藏（二等）三阪小野熊之助　小平平治　吾妻惠　澤渡草野義孝（三等）永戶荻野傳吉　三阪內藏祐元　同阿部一　同大竹セキ　小平文七　川前根本澤次郎　三阪宮澤茂作　上遠野濱谷喜一（四等）上小川草野正　入遠野矢代喜一　三戶新太郞　渡邊吉田淸信　磐崎鈴木庄吉　田人大和田福次郎　蛭田菊一　三阪折內七藏　箕輪新妻重春　澤渡大竹末造　若松龜吉　三瓶理喜男　佐藤靜彥　永戶根本鐡長　川前田中周吾　入遠野面川秀之助

兵事主任幹事會

平署管內兵事主任幹事會を二十九日正午から平、四倉、植田三署同幹事會を午後一時から平署會議室に開き總會の日取場所を決定す

平町水道委員會

二十八日午後一時から開き不用品賣拂其他協議

木工家具工業組合
平町に結成さる

平建具指物商三十餘名が一丸となつて木工家具工業組合を結成する事となつた出資一口二十圓、全部で三百口、今後は專屬製板、仕上塗工場倉庫等を建設進展を圖る

全從業員一分間默禱
出火一周年を迎へ あす昭和人絹慰靈祭

林技師外職工三名が殉職した錦村昭和人絹の火災があつてあすで丁度滿一年、會社では午前八時から同社稲荷神社で殉職者の慰靈祭を行ひ從業員が一分間默禱後大日本消防協會緒方理事、山崎縣保安課長の講演を聞く

天氣豫報（小名濱測候所發表）

今晩は北西の風晴
明日は南東の風薄曇
（風强かるべし）

泉駐在所移轉

植田署管內泉村巡査駐在所は此程同村大字泉字泉二〇六に移轉

箕輪村會

三十日午前十時から開き左記諸件附議
學務委員、傳染病豫防委員、選擧區長及區長代理推薦、村有林分割登記

郵便料金改正

四月一日より
手紙　四錢
葉書　二錢
往復葉書　四錢
封緘葉書　四錢
◇舊葉書は料額印面の下部に五厘切手を加貼して御使ひ下さい
平郵便局

鯨岡氏長逝
磐陽野球育ての親

湯本町區會議員鯨岡久一郎氏は昨年秋以來胃腸を害し慶大病院から義兄に當る東京戶部光衞氏宅で靜養し今月中旬からは帝大病院に入院療養中の處藥石効なく今曉四時半逝去した、享年四十、葬儀其他は未定
氏は磐城中學から早大商科に學び磐陽野球界育ての親として後進の指導に專念してゐた關係からその死を惜まれてゐる

郵便料金値上協議

平局では來月一日からの郵便料金値上げに關し來る二十八日マルトモホールでこれが協議打合會を開く

正しい角度から市制を觀る
土浦、栃木飛び歩る記（5）
在平日刊記者團

（土浦町及隣接町村に關する調査書。承前）
斯くの如く何れの方面より觀るも、當地方は所詮一個の統合的自治体を形成する事に向つて一切の力を注がねばなりますまい、即ち茲に數字を示して近接町村の關係を明かにし各位の賢慮に愬ふる次第であります。云々
而して土浦、眞鍋、中家、東、藤澤、阿見二町四ヶ村を區域（面積四・一三方里、八千七百十六戶、四萬五千三百四十二人、一方里當り人口密度一萬二百五十二人）とする
面積戶口及び里程　人口增加豫想　戶數　職業別人口　豫算　資力　町村稅賦課率　財產　町村債　吏員　學齡兒童數　小學校學級編成　同學年別兒童　同敎員數及給料額　議員選擧有權者數　會社　警察署管轄區域　消防施設　傳染病患者發生及死亡數　町村組合及水利組合　郵便電信電話區域の二十二項に亘る詳細な統計を掲げた

×

平町が井上助役の過剩精力によつて作り上げられた市制施行の理由書を公にした如く土浦町でも該問題に對する關係町村民の認識を深むる意味にて『土浦中家の合併に就ての研究』なる物を發表した。之によると

合併の齎らす利益

一、町村稅賦課率の不均衡を是正する事を得る。即ち現在土浦と中家の課稅率を比較せば（十年度）

	土浦	中家
地租附加稅	五六錢	六六錢
家屋稅	四〇	五〇
戶數割平均	一〇圓	三圓六九

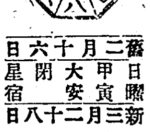
となつて居り合併後現在中家の持つ土地に對する村稅賦課率を土浦並みに引下ぐる結果は金六百五十圓、家屋稅に於ては同じく金二百五十三圓、また戶數割に就ては實に金二千二百七圓減稅される卽ち以上三種の稅に於て減稅される金額計三千百十圓を中家の戶數割賦課戶數八百二十戶に割當てれば一戶平均三圓七十九錢二厘宛減額される事となる

二、合併の上中家村役場吏員現員五名は之を其儘採用するとしても尚ほ役場費のみに於て金三千六百圓餘の節減を爲し得る、卽ち之を中家の戶數八百二十戶に割當てれば平均金四圓三十九錢の節約となる

三、小學校に於て觀ても中家の現狀は相當研究されてよい點がある
（此項未完）

潮汐（小名濱測候所發表）

	滿潮 前	滿潮 後	干潮 前	干潮 後
二十八日	四、三五	五、三〇	一一、一五	一一、二〇
二十九日	五、〇〇	六、〇〇	一一、五〇	一一、四〇



新三月二十八日　日曜　甲寅　大安　閉　星宿　舊二月十六日

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　十分の活氣を帶び來る日移轉旅行起業等吉▲二黑　あせればあせるほど凶害に見舞はれ易き注意日▲三碧　一時凌ぎの術策は却て後の患を大ならしむ▲四綠　眞面目に働けば追はずともびんぼふ神は逃出す▲五黃　氣乘り過ぎるときは横道に脫して苦むべし▲六白　殺伐の氣を起さず靜にして動止に注意せよ▲七赤　徒らに理想のみ高くして實績の伴はざる日▲八白　飾り氣を去り地味に働くべき日外出は注意▲九紫　何でも持つて來いの吉日名弘め起業開店吉

新三月二十九日　月曜　乙卯　赤口　建　張宿　舊二月十七日

▲一白　權力次第に加り來れど威勢をほこること勿れ▲二黑　ぎやく運に氣付かず志望を立て窮境に陷るべし▲三碧　氣も晴々とゆくわいに仕事のはかどる日建築移轉吉▲四綠　大風の後の靜かなる如し運次第に良轉す▲五黃　利益の爲には手段をえらばずひくつならんとす▲六白　物事は穩健なるに宜し力を賴みて苦を招す▲七赤　横道をさけて實直に本業を守るはちんちやくと勇きとの賜▲九紫　良運とて我利一點張となれば落し穴に入る

魁文堂
新學期賣出し
中等敎科書及辭書類
國定敎科書及大全科類
ランドセル、アルバム
萬年筆
魁文堂

百藥貨品
福島縣平町二丁目
藥劑士　鈴木新右エ衞門
西村屋藥舖
電話三番
振替　東京六二九九　仙臺一二〇一

通學服には
小國民の体位向上は
國策が生んだ
强くて安い
愛國健康服
特約店　三井呉服店
雜貨部
電 38・284

おひな人形
東京一流
豊月の特作品……
變型十五人揃セット
本年の新型人形！
稀らしい小道具類
各種取揃へ
フクタヤ一流の大勉强
平町二丁目
福多屋祝品部